

「見過ごされる視点 女性参画で強化する地域防災力」 を開催しました！

災害に備え、各地域では防災・減災に向けてさまざまな取組を進めています。しかし、地域防災組織の「**決める場**」に**女性が少ない**ことで、**女性と男性のニーズの違いが配慮されず**、例えば過去の大規模災害の時、避難所において授乳スペースが確保されていなかったり、洗濯物を干す場所への配慮がなかったり等の**困りごとがあった**と報告されています。今回は、**誰もが当事者**という意識で、災害時の困難を減らす、**地域防災力の強化**について考えました。

当日の様子

当日は、男女あわせて19名の参加者が集まりました。
滋賀県立大学男女共同参画アドバイザー等ジェンダー平等にかかわる活動をされている勝身真理子氏を講師にお招きし、講演・ワークショップを開催しました。



①講演会

日頃の性別を基にした地域の「意識・しくみ」（例えば地域組織の会長・役員などが男性中心であること）は災害時そのまま反映され、女性の困りごとが配慮されないことがあると学びました。女性を含め、子ども、高齢者、しょうがい者など多様な人々の声が届きそのニーズが配慮される防災・減災を進めるためにも、普段の暮らしにある地域づくりの「決める場」に女性を始め多様な視点を取り込む重要性を改めて感じました。

②ワークショップ

講演で挙げた災害時における女性の困りごと等を踏まえ、女性が安心できる避難所運営について、4つのグループに分かれて考えました。

その後、グループで挙げたアイデアを発表し、自分のグループでは出なかった新しいアイデアや大事だと感じたアイデア、共感したアイデアに自由にシールを貼っていきました。

シールが多かったアイデアの中には、**女性スタッフを増やすことや、女性専用スペースを作ること**等といった災害時における実践的なものから、**運営会議に女性が参加する**といった「決める場」における女性参画まで、たくさんあり、参加者全員でアイデアを交換しながら考えることができました。



まとめ

女性、男性が参加され、ともに考えたことで、**誰もが当事者**という意識を持って取り組むことができました。参加者にとっても、職員にとっても、地域防災組織をはじめとした地域活動における女性参画の重要性を再認識し、考える大きなきっかけとなりました。

市では、地域づくりについて、女性の参画を検討している団体に専門的な知識や経験のあるアドバイザーを派遣しています。ぜひご活用ください。